

3年目の“猪名川流域のアユの産卵場づくり”を実施

～川底をたがやして、アユが産卵できるようにしよう！～

～猪名川河川事務所～

神崎川水質汚濁対策連絡協議会猪名川分科会(事務局:猪名川河川事務所)、猪名川水系漁業協同組合連合会の主催で、『2019猪名川流域のアユの産卵場づくり』を、流域の市民団体、漁協、NPO団体及び一般募集した市民の皆さんの総勢49人で実施しました。

皆さんの協力により、このアユの産卵場づくりも3年めとなりました。今後、整備した産卵場で多くのアユが生まれることを期待しています。参加者は、地元の尼崎市が多かったですが、川西市、大阪市からの参加もありました。

開催概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日 時 : 令和元年11月10日(日) 10時00分～11時30分 ■ 場 所 : 兵庫県尼崎市田能 中園橋付近 ■ 参加人数 : 49人 ■ 内 容 : 産卵場づくり、河川内伐採木を使った工作、アユの試食、猪名川のアユと環境の話 ■ 主 催 : 神崎川水質汚濁対策連絡協議会 猪名川分科会(事務局:猪名川河川事務所)、猪名川水系漁業協同組合連合会 ■ 協 力 : 流域ネット猪名川、自然と文化の森協会、NPO法人まいどいんあまがさき
-------------	--

イベントの様子

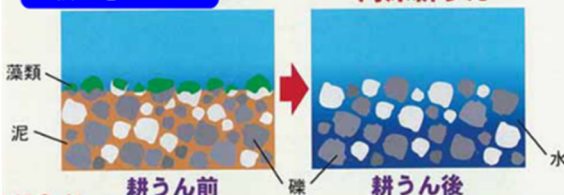
快晴の秋晴れの中、アユの産卵場作り(耕し)を開始しました。晩秋のこの次期、水温は20℃を下回り、冷たかったです。しかし、当日の朝にはカワウの群れが、耕す場所の近くでアユを待ち構える様子も目撃されたことから、ちょうどこの場所でのアユの産卵時期に実施することができたと考えています。

まず、耕す場所の上流側から、体力のある方がツルハシで川底をほぐし、続いて子供を含むその他の方がスコップで掘り返して、さらに大きな石を取り除いていく、という流れで作業を進めました。昨年、一昨年からのリピーターの方もおられ、慣れた手つきで作業をされていました。

その後、猪名川水系漁業協同組合連合会さんの提供による、一庫ダム上流にすむ陸封アユの試食を行いました。また、大人は猪名川のアユと環境について学び、その間、子供達は流域ネット猪名川さんの指導のもと、河川内伐採木を使った工作に挑戦しました。



「耕し」とは？



河床耕うん

アユの産卵に適した環境として、
 ・径が約5mm～3cmのきれいな礫が「浮き石状態」
 ・礫に泥や藻類が付いていない
 などがあります。

河床耕うんにより、アユが産卵しやすい河床環境を創出しています。

出典:アユの人工産卵床の作り方(水産庁)

参加者の声

『楽しく産卵場づくりができた』『親子で自然にふれあい、学習できてよかった』

『猪名川にアユがいることを知った』『川をきれいになりたいと思った』

『アユがおいしかった』『ふだんからやりたいと思った』

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 工務課
 〒563-0027 大阪府池田市上池田2-2-39 TEL 072-751-1111 (代)

